HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	吉田康登氏採集の植物標本
Author(s)	持田, 誠; 加納, 寛之
Citation	浦幌町立博物館紀要, 13, 31-40
Issue Date	2013
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52732
Type	journal article
File Information	Bull. Historical Mus. Urahoro 13.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

吉田康登氏採集の植物標本

持田　誠[1)]・加納寛之[2)]

[1)] 帯広百年記念館（〒080-0846　北海道帯広市緑ヶ丘2）
[2)] 日本福音ルーテル帯広教会（〒080-0023　北海道帯広市西13条南13丁目1－42）

MOCHIDA, Makoto & Hiroyuki KANO : Herbarium specimens of YOSHIDA Yasuto collecition. Bulletin of the Historcal Museum of Urahoro 13 : 31-40, 2013.

Key words : Flora, museum collection, Urahoro, Ikeda Lutheran Church

1．緒言

浦幌町立博物館には、上浦幌小学校標本、中川公郎標本、吉田康登標本などの植物標本が収蔵されている。2012（平成24）年11月に、帯広百年記念館の移動展「博物館はなぜ標本を集めるのか？標本からわかること」展を開催し、これらの標本について展示・公開した。展示に際し、これらの植物標本について資料情報の調査･検討を実施した。本報ではこのうちの吉田康登標本について、採集者吉田康登氏の人物史と浦幌町、池田町との関わりを明らかにし、本標本の持つ意義について考察した。また、標本目録を作製し、今後の調査研究や教育への利用に供するものとした。

2．吉田康登氏

採集者の吉田康登氏は、池田町のキリスト教会牧師である（図1）。長崎県に生まれ、その後、ルター派（ルーテル教会）[(註1)]の牧師として神奈川県横浜や東京都で牧会に従事したとされる。しかし、第二次世界大戦中、政府による宗教統制で牧師の職を失うと共に三人の子息が応召[(註2)]。終戦直後に東京都で募集していた集団帰農[(註3)]に加わり渡道し、浦幌町に居住する。



図1　初代池田伝道所（後の池田教会）の前で。写真右端の男性が吉田康登牧師。1957（昭和32）年。
日本福音ルーテル池田教会所蔵。

『浦幌村五十年沿革史』には、吉田氏は当初、出身である九州への帰農を希望したが、既に希望者が多く、北海道へ赴く事になったと記録されている（浦幌村社会教育教會1949）。当時、北海道開拓協会が東京都と共に帰農者を募集していた事から、これに応じたものと思われる。

また、同書には、1945（昭和20）年9月7日の第一回入植者として「吉田康登　家族數:五、部落:萬年、前居住地：東京都、配當面積：7.1町、前職業：牧師」と記されているほか、当時、吉田氏が居住していた萬年の自宅の写真も掲載されている。しかし、吉田氏が浦幌町在住時に教会で牧師として勤務した事は無い。一方で、不慣れな農作業の傍らで家庭集会を開き、浦幌の人々に信仰の種を播いていたとされる。

一方、戦後になって池田町でルター派の教会設立の機運が高まった。1955（昭和30）年11月頃から、町内で聖書研究会を開いていた増田健二郎らにより、牧会の経験がある吉田氏が招聘され

たとされる（池田町史編纂委員会1979）。こうして1957（昭和32）年5月に初代の池田伝道所、後の池田教会が開設された（図2）。この初代池田伝道所は、地主から池田町旭町の土地を提供され、浦幌炭坑の協和会館建物を移築して設立されたものであった（図3）[註4]。伝道所開設と共に、吉田氏は浦幌町から池田町へ転出している。

1968（昭和43）年、都市計画による道路整備に伴い、教会は清見ヶ丘の麓の現在地へ移転。これに伴い、協和会館建物を活用した会堂を取り壊し、教会は新会堂（現会堂）を建築する事になる（図4-1、4-2）。吉田牧師は、教会建設の資金とするために自ら「押し花色紙」を製作して販売した（図5-1）。この取り組みは注目を集め、当時の新聞にも報道されている[註5]。

吉田牧師は、池田町在住時に地元の営林署からの依頼で、管内の植物調査と標本の製作を依頼されたと伝えられている。現在、浦幌町立博物館に残されている植物標本も、採集年代はこの時代のものである。

新会堂建設の資金捻出にあたり押し花色紙の製作・販売を思いついたのは、こうした標本製作の経験・蓄積があったためと思われる。初代教会時代の1961（昭和36）年8月に、教会が野外礼拝（教会主催のキャンプ）へ出かける際の写真が残されているが、ここには大型の胴乱[註6]を下げて歩く吉田牧師の姿が写されており、大変興味深い（図6）。

一方、営林署から依頼がある程、植物に関する知識や経験が知られていたという事は、以前から野生植物への関心が高かったものと推察されるが、それを裏付ける史料や、依頼を受けた営林署の標本がその後どうなったかについては未確認である。



図2　池田町旭町に建つ池田教会の初代会堂。1957（昭和32）年。池田教会所蔵。



図3　移築前の建物。浦幌炭坑の協和会館として用いられていた建物で、写真左奥にカマボコ屋根の会館が見える。会館とは廊下で接続していたらしい。1957（昭和32）年ころ。池田教会所蔵。



図4-1



図4-2

建設中の新会堂。町の区画整理で移転を余儀なくされたのを機に建設した。1968（昭和43）年5月ころ。図4-2は完成した新会堂の献堂式に集う人々と吉田牧師（玄関前の左側の人物）。1968（昭和43）年7月28日。共に池田教会所蔵。



図5-1



図5-2

二代目会堂を建設するにあたり、資金にあてる為に吉田牧師自ら製作・販売した野草の押し花色紙のうちのひとつ、ザゼンソウ（池田教会所蔵）。図5-2は吉田氏が製作したザゼンソウの標本（浦幌町立博物館所蔵）。製作の仕方が非常によく似ている事がわかる。



図6　野外礼拝へ向かう池田教会の人々。右から3人目の帽子をかぶる人物が吉田牧師で、肩から大型の胴乱を提げて歩く様子がわかる。1961（昭和36）年8月。池田教会所蔵。

3．標本の概要

（1）保存状況および採集年代

確認された植物標本は合計で107点であった。表1に標本目録を示す。浦幌町立博物館の登録台帳によると、同館の前身である浦幌町郷土博物館時代の1968（昭和43）年5月15日に、中川郡池田町在住の吉田康登氏（本人）より寄贈を受けていた。採集者による標本番号は付されておらず、浦幌町郷土博物館による受入番号が標本台紙背面に押印されており、これが事実上の標本番号となっている。なお、登録台帳上は108点だが、現在のところ1点が確認できておらず、同館に所蔵の他のコレクションに紛れている可能性が高い。今後の整理作業で発見されると思われる。

採集年代は、1961（昭和36）年9月22日から1969（昭和44）年5月15日までで、1962（昭和37）年採集の標本が27点と最も多く、1963（昭和38）年産が22点、1966（昭和41）年産が20点、1968（昭和43）年産が13点、1964－65（昭和39－40）年産が各12点、1961（昭和36）年産が1点であった。

標本はいずれも標本台紙に植物体と標本ラベルが貼付され、保護用のカバーがかけられた状態で収蔵されていた。保存状態は良好で、著しい破損や劣化は見られない。これは、標本自体が採集者により丁寧に製作されてきた事も大きいが、寄贈を受けて以来、コンテナに収蔵された状態で、展示や研究などによる活用もほとんど為されてこなかった事も、良好な保存状態を保ってきた背景と思われる。

（2）採集地域の特徴

採集地は池田町が58点と突出して多く、帯広市、豊頃町、浦幌町、本別町を含めた十勝圏で全体の66%にあたる71点を占めていた（図7）。池田町産標本58点のうち、32点が旭町、20点が清見で採集されており、これは初代池田伝道所の周辺で採集した可能性が高く、日常的に植物採集が行われていものと考えられる。

帯広市は「岩内仙境」、豊頃町は「大津海浜」「十弗」、浦幌町は「厚内海浜」、本別町は「夏川園」（義経山麓の本別公園の旧称）が採集地だった。池田伝道所では、本別町の義経山などへ野外礼拝に出かけていた事が、教会に残されている写真アルバムに記録されており（図6）、この際に採集しものが含まれていると推察される。

道内産標本には大雪山の標本が9点存在し、大半は「勇駒別」で採集されたものである。勇駒別は上川郡東川町であり、旭岳が含まれる事から、当該地域を登山中に採集したものと思われる。

表１　浦幌町立博物館所蔵「吉田康登採集植物標本」目録

収蔵番号	科名	学名	和名	採集年月日	採集地	備考
子嚢菌門チャシブゴケ菌綱チャシブゴケ目						
1968-1436	ウメノキゴケ科	Usnea diffracta Vain.	ヨコワサルオガセ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1468		Nephromopsis nephromoides (Nyl.) Randlane & Saag	オオアワビゴケ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
緑藻綱ハネモ目						
1968-1463	ハネモ科	Bryopsis plumosa (Hudson) C.Agardh	ハネモ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
1968-1462	ホンダワラ科	Sargassum fulvellum C.Agardth	ホンダワラ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
褐藻綱コンブ目						
1968-1518	コンブ科	Eisenia bicyclis (Kjellman) Setchell	アラメ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
紅藻綱ウミゾウメン目						
1968-1461	ガラガラ科	Gloiophloea okamurai Setchell	ニセフサノリ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
1968-1459	サンゴモ科	Amphiroa dilatata Lamouroux	カニノテ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
1968-1516	テングサ科	Acanthopeltis japonica Okamura	ユイキリ(トリアシ)	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	
1968-1460	オキツノリ科	Gymnogongrus flabelliformis Harvey	オキツノリ	1966/3/22	神奈川県葉山海浜	ラベルには「おきのり」と記載
シダ植物門						
1968-1499	マツバラン科	Lycopodium sitchense Rupr.	タカネヒカゲノカズラ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1505	トクサ科	Equisetum palustre L.	イヌドクサ	1967/5/25	池田町清見	
1968-1527		Equisetum arvense L.	スギナ	1969/5/3	池田町	
1968-1508		Equisetum arvense L.	スギナ	1966/5/30	池田町利別	
1968-1465	ウラボシ科	Asplenium sarelii Hook.	コバノヒノキシダ	1963/1/23	肥前島原深江	現、長崎県南島原市深江
種子植物門裸子植物亜門						
1968-1541	イヌマキ科	Podocarpus chinensis Wall. ex Forbes	ラカンマキ	1964/5/10	肥前島原	現、長崎県島原市
種子植物門被子植物亜門双子葉綱古生花被亜綱(離弁花類)						
1968-1487	ヤナギ科	Salix bakko Kimura	ヤマネコヤナギ	1963/5/14	池田町旭町	
1968-1510		Salix integra Thunb.	イヌコリヤナギ	1963/10/12	池田町清見	
1968-1519		Salix integra Thunb.	イヌコリヤナギ	1963/10/12	池田町清見	
1968-1539		Salix integra Thunb.	イヌコリヤナギ	1965/6/25	池田町清見	
1968-1502	カバノキ科	Alnus viridis (Chaix) Lam. et DC. subsp. maximowiczii (Callier) D.Löve	ミヤマハンノキ	1984/8/14	定山渓	
1968-1441	クワ科	Morus bombycis Koidz.	ヤマグワ	1966/8/1	池田町旭町	
1968-1540	タデ科	Persicaria lapathifolia (L.) Gray	オオイヌタデ	1965/8/??	池田町清見	採集日は抹消した跡がある
1968-1484		Persicaria nepalensis (Meisn.) H.Gross	タニソバ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1467		Persicaria thunbergii (Siebold et Zucc.) H.Gross var. stolonifera (F.Schmidt) Nakai ex H.Hara	オオミゾソバ	1966/8/1	池田町旭町	
1968-1464		Rumex acetosella L. subsp. pyrenaicus (Pourret et Lapeyr.) Akeroyd	ヒメスイバ	1963/8/3	池田町旭町	
1968-1453	ナデシコ科	Melandrium firmum (Siebold et Zucc.) Rohrb.	フシグロ	1962/8/16	岩内	帯広市、岩内仙境
1968-1446		Stellaria radians L.	エゾオオヤマハコベ	1962/7/20	尺別	現、釧路市音別町尺別
1968-1512	キンポウゲ科	Actaea asiatica H.Hara	ルイヨウショウマ	1963/5/30	池田町清見	
1968-1443		Adonis amurensis Regel et Radde	フクジュソウ	1965/3/17	池田町清見	

収蔵番号	科名	学名	和名	採集年月日	採集地	備考
1968-1536		Adonis ramosa Franch.	フクジュソウ	1969/5/10	十弗	豊頃町十弗
1968-1476		Anemone flaccida F.Schmidt	ニリンソウ	1969/5/10	十弗	豊頃町十弗
1968-1511		Clematis apiifolia DC. var. biternata Makino	メボダンヅル・コボタンヅル	1963/1/23	肥前島原深江	現、長崎県南島原市深江
1968-1470	メギ科	Caulophyllum robustum Maxim.	ルイヨウボタン	1963/5/30	池田町清見	
1968-1442	ドクダミ科	Houttuynia cordata Thunb.	ドクダミ	1966/5/8	肥前島原	現、長崎県島原市
1968-1538	アブラナ科	Rorippa indica (L.) Hiern	イヌガラシ	1963/5/14	池田町利別	
1968-1493	マンサク科	Corylopsis pauciflora Siebold et Zucc.	ヒュウガミズキ	1964/1/20	花店	生花店で購入か？
1968-1522	ユキノシタ科	Hydrangea scandens (L.f.) Ser.	ガクウツギ	1965/6/16	天城山	静岡県、伊豆半島
1968-1530	バラ科	Agrimonia pilosa Ledeb. var. japonica (Miq.) Nakai	キンミズヒキ	1966/7/5	池田町清見	
1968-1498		Filipendula kamtschatica (Pall.) Maxim.	オニシモツケ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1469		Potentilla sprengeliana Lehm.	キジムシロ	1963/8/3	池田町旭町	
1968-1483		Prunus japonica Thunb.	ニワウメ	1963/6/22	池田町旭町	
1968-1531	バラ	Sorbus sambucifolia (Cham. et Schltdl.) M.Roem.	タカネナナカマド	1964/7/22	大雪山	旭川営林署員 土肥氏採集.
1968-1477	マメ科	Desmodium racemosum DC.	ヌスビトハギ	1963/8/3	池田町旭町	
1968-1440		Lathyrus palustris L. / Lathyrus palustris L.	レンリソウ	1965/7/3	池田町清見	
1968-1438		Thermopsis lupinoides (L.) Link	センダイハギ	1968/7/20	厚内海岸	
1968-1454	フウロソウ科	Geranium wilfordii Maxim.	ミツバフウロ	1962/9/3	池田高校正門前	
1968-1506	カエデ科	Acer shirasawanum Koidz.	オオイタヤメイゲツ	1965/8/14	定山渓	
1968-1447	ツリフネソウ科	Impatiens textorii Miq.	ツリフネソウ・ムラサキツリフネ	1962/8/30	池田町旭町牧場	
1968-1479	ヒシ科	Trapa natans L. var. bispinosa Makino, excl. basion.	ヒシ	1963/6/22	池田町旭町●●園	●●は判読不能
1968-1445	アカバナ科	Epilobium cephalostigma Hausskn.	イワアカバナ	1962/7/27	本別夏川園	「夏川園」は本別公園の旧称
1968-1523		Epilobium hornemannii Rchb. var. foucaudianum (H.Lév.) H.Hara	ミヤマアカバナ	1965/7/29	池田町清見	
1968-1437	ミズキ科	Chamaepericlymenum canadense (L.) Asch. et Graebn.	ゴゼンタチバナ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1481	ウコギ科	Panax schiuseng Nees. var. japonicum Makino	トチバニンジン	1966/8/4	温別	採集地は「音別」の誤記か？
1968-1455	セリ科	Conioselinum filicinum (H.Wolff) H.Hara	ミヤマセンキュウ	1962/8/16	岩内仙境	帯広市、岩内仙境
種子植物門被子植物亜門双子葉植物綱後生花被類（合弁花類）						
1968-1482	ツツジ科	Cassiope lycopodioides (Pall.) D.Don	イワヒゲ	1964/7/22	大雪山	旭川営林署員 土肥氏採集.
1968-1490		Elliottia paniculata (Siebold et Zucc.) Hook.f.	ホツツジ	1962/8/16	岩内仙境	帯広市、岩内仙境
1968-1501	ガンコウラン	Empetrum nigrum L. var. japonicum K. Koch	ガンコウラン	1965/8/5	大津海浜	
1968-1542	サクラソウ科	Lysimachia thyrsiflora L.	ヤナギトラノオ	1965/6/25	池田町清見	
1968-1475		Lysimachia vulgaris L. var. davurica (Ledeb.) R.Knuth	クサレダマ・イオウソウ	1962/8/11	池田町旭町	
1968-1497		Trientalis europaea L.	ツマトリソウ	1963/5/30	池田町清見	
1968-1515		Trientalis europaea L.	ツマトリソウ	1967/6/10	池田町清見	
1968-1480	リンドウ科	Gentiana zollingeri Fawc.	フデリンドウ	1969/5/15	池田町旭町	
1968-1489		Gentiana zollingeri Fawc.	フデリンドウ	1963/5/18	池田町旭町	
1968-1514		Gentiana zollingeri Fawc.	フデリンドウ	1967/5/2	池田町旭町	
1968-1500	アカネ科	Galium kamtschaticum Steller ex Roem.et Schult.var.acutifolium H.Hara	オオバノヨツバムグラ	1967/6/10	池田町清見	
1968-1491		Rubia jesoensis (Miq.) Miyabe et T.Miyake	アカネムグラ	1962/7/21	釧路貝塚町	
1968-1528	ムラサキ科	Omphalodes krameri Franch. et Sav.	ルリソウ	1966/9/23	北見	
1968-1486	レンプクソウ科	Adoxa moschatellina L.	レンプクソウ	1966/5/16	池田町旭町	
1968-1494	シソ科	Elsholtzia ciliata (Thunb.) Hyl.	ナギナタコウジュ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1448		Lycopus uniflorus Michx.	エゾシロネ	1962/8/25	池田町清見	
1968-1452		Mosla dianthera (Buch.-Ham. ex Roxb.) Maxim.	ヒメジソ	1962/9/8	池田町旭町牧場	

収蔵番号	科名	学名	和名	採集年月日	採集地	備考
1968-1525	オオバコ科	Plantago lanceolata L.	ヘラオオバコ	1963/8/1	野幌酪農学園	江別市
1968-1458	スイカズラ科	Lonicera japonica Thunb.	スイカズラ(ニンドウ)	1963/1/23	肥前島原深江	現、長崎県南島原市深江
1968-1503		Macrodiervilla middendorffiana (Carrière) Nakai	ウコンウツギ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1439		Viburnum furcatum Blume ex Maxim.	ムシカリ(オオカメノキ)	1965/8/14	定山渓	
1968-1535	オミナエシ科	Patrinia gibbosa Maxim.	マルバキンレイカ	1965/8/14	定山渓	
1968-1450		Patrinia villosa (Thunb.) Juss.	オトコエシ	1962/8/16	岩内仙境	帯広市、岩内仙境
1968-1449	キク科	Artemisia sacrorum Ledeb.	イワヨモギ	1962/8/16	岩内仙境	元はホソバイワヨモギと同定
1968-1466		Chrysanthemum indicum L.	アブラギク	1963/1/23	肥前島原深江	現、長崎県南島原市深江
1968-1529		Chrysanthemum yezoense Maek.	コハマギク	1966/9/10	厚内海浜	
1968-1495		Contipeda setosum Kitamura	エゾノキツネアザミ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1521		Erigeron bonariensis L.	アレチノギク	1962/8/11	池田町旭町	
1968-1520		Eupatorium japonicum Thunb. var. simpleifolium Nakai	ヒヨドリバナ	1963/7/13	池田町旭町	
1968-1543		Matricaria matricarioides (Less.) Ced.Porter ex Britton	コシカギク	1966/7/10	池田町旭町	
1968-1526		Matricaria tetragonosperma (F.Schmidt) H.Hara et Kitam.	シカギク	1966/7/10	池田町旭町	
種子植物門被子植物亜門単子葉植物綱						
1968-1537	ヒルムシロ科	Potamogeton distinctus A.Bennet.	ヒルムシロ	1966/9/23	北見	
1968-1504	イグサ科	Luzula capitata (Miq.) Miq. ex Kom. var. lanigera Nakai	スズメノヤリ・ワタスゲ	1969/5/15	池田町旭町	
1968-1485	サトイモ科	Symplocarpus foetidus f. latissimus	ザゼンソウ(ダルマソウ)	1969/5/10	池田町	
1968-1534	カヤツリグサ科	Cyperus orthostachyus Franch. et Sav.	ウシクグ	1966/7/30	池田町旭町	元はチャガヤツリと同定
1968-1533	イネ科	Alopecurus aequalis Sobol.	スズメノテッポウ	1965/7/3	池田町旭町	
1968-1492		Coix lacryma-jobi L.	ジュズダマ	1962/11/2	東京鷺宮	現、東京都中野区鷺宮
1968-1478		Digitaria violascens Link	アキメヒシバ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1471	イネ科	Eragrostis multicaulis Steud.	ニワホコリ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1507		Isachne globosa (Thunb.) Kuntze	チゴザサ	1962/9/8	池田町旭町牧場	
1968-1451		Muhlenbergia japonica Steud.	ネズミガヤ	1962/9/3	池田町旭町牧場	
1968-1496		Muhlenbergia japonica Steud.	ネズミガヤ	1963/8/3	池田町旭町	
1968-1532		Poa annua L.	スズメノカタビラ	1962/9/15	池田町旭町	
1968-1474	ユリ科	Convallaria keiskei Miq.	スズラン	1962/5/30	池田町清見	
1968-1472		Paris verticillata M.Bieb.	クルマバツクバネソウ	1963/5/30	池田町清見	
1968-1444		Tricyrtis affinis Makino	ヤマヂノホトトギス	1962/10/31	天城山	静岡県、伊豆半島
1968-1473		Trillium camschatcense Ker Gawl.	オオバナエンレイソウ	1963/5/30	池田町清見	
1968-1517		Trillium camschatcense Ker Gawl.	オオバナノエンレイソウ	1969/5/10	十弗	豊頃町十弗
1968-1524	ラン科	Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume	ギンラン	1965/6/28	池田町清見	元はクゲヌマランと同定
1968-1488		Liparis makinoana Schltr.	スズムシソウ	1961/9/22	池田町千代田 竹中氏林中	
1968-1456		Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp.ophrydioides (F.Schmidt) K.Inoue	キソチドリ	1962/8/16	岩内仙境	
1968-1513		Platanthera takedae Makino	ミヤマチドリ	1964/7/22	大雪山勇駒別	
1968-1509		Spiranthes sinensis (Pers.) Ames	モジズリ	1962/8/11	池田町旭町高台	

収蔵番号は浦幌町立博物館の資料登録台帳に記載の番号で、標本本体ではラベルではなく背面の管理表記に記載されている。
明らかな誤同定であると判断されるものについては、同定ラベルを付し、同定後の名称を記述した上で、備考欄に元の同定名を記載した。
シダ植物・種子植物の科の配列は『高等植物分類表』(伊藤1976)にもとづく新エングラー・システムによる。
科内の属および種の配列は、学名のアルファベット順による。
学名は、地衣類はHarada et al. (2004)、藻類は吉田・吉永 (2010)、シダ植物と種子植物はYリスト (米倉・梶田 2003－) による。
採集者は特記の無い限り吉田康登氏。
採集地は標本ラベルに記述のまま。解釈を備考欄に記述した。

なお、コレクション全体のうち、大雪山採集標本の2点のみ、採集者が「旭川営林署員土肥氏採集」と記述されている。旭川営林署は現在の上川中部森林管理署で、同署は現在、大雪山を管轄している。しかし、標本採集時の1964（昭和39）年は、旭川営林署とは別に大雪営林署が存在して大雪山を管轄していた事から、公的な調査登山であった可能性は低いと思われる。

また、北見、釧路、音別[註7]と云った近隣市町村で採集された標本の他、札幌、江別で採集された標本がごく少数だが存在する。江別産標本は採集地が「野幌酪農学園」と記されているもので、現在の酪農学園大学、とわの森三愛高等学校である。酪農学園はプロテスタント系の学校法人であり、キリスト教関係の行事で赴いた際に、そこで採集したものと推察される。

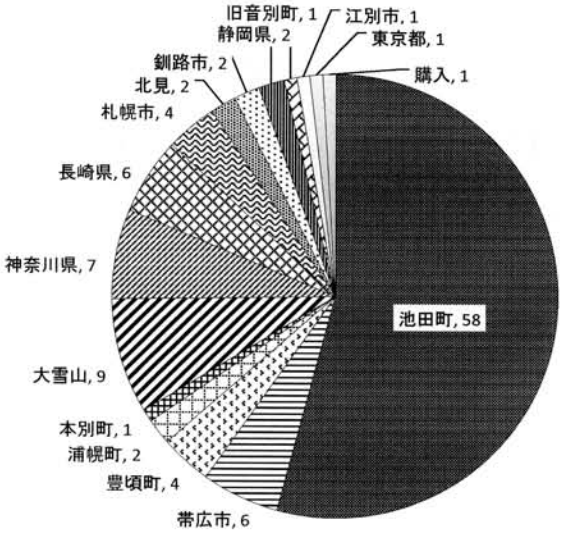


図7　吉田標本の採集地別標本点数
池田、帯広、豊頃、浦幌、本別の十勝5市町で三分の二を占める。

札幌産標本は定山渓で採集されている。また、道外の採集地のうち、「天城山」は静岡県伊豆半島の番三郎岳一帯を指す天城連山と思われる。この他「神奈川県葉山海浜」があり、三浦半島基部に位置する神奈川県三浦郡葉山町の海岸を指すと思われる。これら３地点の標本は採集年月日も集中している事から、旅行中に採集したものであろう。また、「東京鷺宮」と記された標本があり、現在の東京都中野区鷺宮を指すと思われるが、やはり旅行中の採集であろう。

一方、「肥前島原」「肥前島原深江」と記された標本が6点ある。これらは現在の長崎県島原市および南島原市深江（当時は南高来郡深江町）を指すと思われる。採集年が分散している事から、吉田牧師の出身地である長崎県へ赴いた際に採集したものと推察される。

（3）分類群の特徴

標本の内訳は、地衣類2点、藻類7点（うち緑藻2点、褐藻1点、紅藻4点）、維管束植物98点であった。維管束植物にはシダ植物、裸子植物を含んでいた。蘚苔類標本は無い。

地衣類はヨコワサルオガセ、オオアワビゴケの2点で、いずれもサルオガセ類（ウメノキゴケ科）だった。採集地は大雪山勇駒別である。ヨコワサルオガセは道東の沿岸部や高標高部に広く見られるサルオガセ類である。オオアワビゴケも道内の山地で広く見られ、十勝圏でもやはり大雪山系の然別湖一帯から生育が知られるが、本州では減少している地域があり、神奈川県では絶滅危惧種（神奈川県絶滅危惧Ⅰ類）に指定されている（高桑ほか2006）。

藻類はいずれも大型の海藻類で、神奈川県葉山海浜で採集されたものである。ハネモ、アラメは道内に分布がなく、オキツノリも道内では南部に生育し道東では稀である。アラメはアワビ類、サザエなどにとって重要な餌資源だが、近年、神奈川県の採集地周辺で行われた調査によると、アラメの分布する海水深幅が従来見られた水深幅よりも狭まっており、被度の減少も報告されている（秋元ほか2012）。

維管束植物では、裸子植物が肥前島原で採集されたラカンマキのみだった。また多くは草本類で、木本類は少なかった。最も多かったのはイネ科・キク科の8点で、大半は野生植物だが、オオイタ

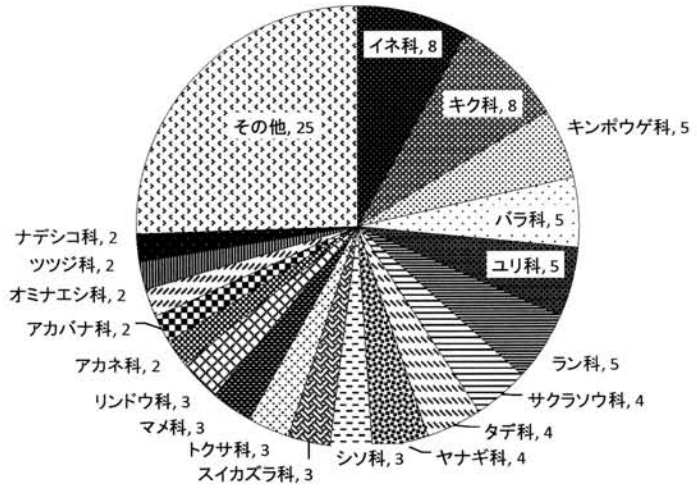


図8　吉田標本の分類別標本点数
吉田標本107点のうち、シダ植物と種子植物98点の科別標本点数。

ヤメイゲツ、ニワウメなどの栽培種も一部に見られた。また、ヒュウガミズキの採集地には「花店」と書かれており、生花店で購入したものを標本にしたと思われる。主な分類群の科別内訳を図8に示した。

全て同定されており、学名の表記にやや混乱が見られるものの、概ねそれらは正確で、植物の観察・同定に対する一定の素養がうかがえる。ただし、ラベルと植物体が一致していないものや、登録台帳と標本とが一致しないものが数点存在し、恐らく博物館受入時の整理作業で誤りが生じたものと思われる。現在、これらの整合作業を行っており、ラベルの張り替えや台帳との整合などを進めている。

帯広市の岩内仙境から採集されているキク科のホソバイワヨモギは、かつて道内ではカムイヨモギの別名で呼ばれ、広く認識されていた時代があった。現在はイワヨモギのシノニム（同物異名）とされ、区別しない事が多い。

池田町旭町から採集されているチャガヤツリは、同属のウシクグの誤同定である。チャガヤツリはもともと温帯系の種で道内では稀であるとされ、『十勝植物誌』（横山1950）にも記載が無いが、阿寒地方での採集例がある（滝田2001）。

同じく池田町清見で採集されているクゲヌマランも、標本では距が突き出して見える事からギンランの誤同定であると思われる。クゲヌマランは、道内では胆振地方以南の太平洋側に分布するとされる（滝田2001）。

北見で採集されているヒルムシロには、同定のポイントとなる果実や沈水葉が無い不完全標本で、オヒルムシロなど近縁種の可能性もあり、ヒルムシロ属ではあるが種を特定できなかった。

やはり北見で採集されているルリソウも、近縁他種である可能性があるが、情報が少なく断定できなかった。標本比較による詳細な検討が引き続き必要である。

全体として分類群には特定の傾向は見られず、希少種も少ない。特に維管束植物については、地域調査で採集した重複標本ではないかと思われる。吉田氏は地元の営林署の依頼で地域の植物相調査をしたと伝えられており、一般種が多い事と採集時期や場所から、その際の重複標本である可能性が高いと思われる。地衣類や藻類については、吉田氏の関心により特に採集されたものであろう。

4．標本の意義と今後の課題

吉田康登標本の大半は、池田町旭町、清見で採集されたもので、浦幌町で採集されたものは厚内海浜での2点のみである。しかし、もともと北海道に縁の無かった吉田氏が池田町で牧師をするに至った背景には、集団帰農者として浦幌町に居住した経緯があった事、また学芸員を配置した郷土博物館が池田にはなかった事から、標本は浦幌町に寄贈されたものと推察される。

植物学的には、標本中、特に十勝の普通種に関する1960年代の記録として、当コレクションの持つ意義は大きいと言える。当地域の植物相研究やレファレンスにおける活用が望まれると共に、当コレクションを土台として、池田・浦幌を中心とする地域植物相研究がいっそう進展する事が

期待される。

地方史的には、池田町に教会を新築する際に資金源とする為、自ら製作･販売した「押し花色紙」誕生のきっかけが当標本群であると言える。教会に残されている「ザゼンソウ」の色紙（図5-1）と、浦幌町立博物館所蔵の標本における「ザゼンソウ」（図5-2）を比較すると、製作方法の共通性がよくわかる。採集地の大半も教会の所在地であり、したがって、池田町の宗教史に関係する史料としての側面も持っていると言えるだろう。

植物研究史の観点からは、営林署から依頼を受けたとされる地域植物調査に関し、史実と残存標本の確認を急ぐ必要がある。また、植物研究者との間で同定依頼や標本交換などを行っていた可能性もあり、国内にはまだ残存標本がある可能性が高い。これらを今後の継続課題としたい。

註

1）日本福音ルーテル教会は、キリスト教プロテスタントの一教派であるルター派の日本における群れのひとつである。ルター派は、ドイツで起こったマルチン・ルターの宗教改革でカトリックから分裂したプロテスタントの源流を為す教派であり、信仰儀礼はカトリックの様式に近く、現代ではカトリックとプロテスタントの中間的な位置づけの教会である。同じルター派でも日本では北米系、北欧系、ドイツ系を由来とする諸団体があり、日本福音ルーテル教会は最大の群れである。1963年に旧日本福音ルーテル教会と東海福音ルーテル教会が合同して、現日本福音ルーテル教会が誕生した。池田町には明治年間より聖公会が多く、その他にも多くのキリスト教会が存在した記録があるが（『池田町郷土誌』によれば、1931年現在キリスト教会12と記されているが、教派の別などは不明）、現在では新興系を除くとカトリック池田教会、日本福音ルーテル帯広教会池田礼拝堂があるのみである。いずれも司祭館または牧師館に常駐の神父（カトリック）、牧師（ルーテル）はおらず、帯広教会からの巡回派遣となっている。

2）第二次世界大戦中、帝国政府はキリスト教に対する弾圧を行い、新教（プロテスタント）各教派を日本基督教団へ合同させる政策を強行した。日本福音ルーテル教会も日本基督教団第五部に編入されたが、信仰告白の不一致などから合同に反対した牧師は、牧師職を事実上追放された。戦後、日本基督教団が部制を解消して統一の信仰告白を制定するにあたり、ルター派、聖公会、日本基督教会、救世軍などいくつかの教派は離脱し、再び独立の教会を発足した。

3）集団帰農は、戦時中、空襲からの疎開と食糧増産体制の強化をはかるため、政府が企図した都市住民の集団移住政策である。背景には、深刻さを増す空襲による被害からの疎開と、徴兵により減少した農村人口、特に若年労働力の極端な不足があった。戦後は荒廃した都心部における大量の失業者への対策と、悪化の一途を辿る食糧事情への対応が主目的となった。もともとは戦時中の1945（昭和20）年3月に閣議設定された「都市疎開者ノ就農ニ関スル緊急措置要綱」に基づく措置で、京浜、名古屋、阪神の三地区の都市住民をそれぞれ北海道・東北・関東甲信越、東海・関東甲信越、近畿・中国の各方面へ振り分けた。

4）日本福音ルーテル池田教会には、初代伝道所の写真が残されている。伝道所に用いられたという協和会館は、浦幌炭坑で映画上映会など炭坑生活者の娯楽・集会所として用いられたカマボコ屋根の講堂が知られているが、移築前の写真を見ると、講堂に隣接して小家屋が接続している事がわかる（図3）。教会ではこの建物を伝道所として購入、移築した。

5）「珍しい押葉色紙づくり　池田の牧師さん」北海道新聞　1967年11月28日

6）採集した植物を入れて運ぶだめの金属製の缶。ビニル袋が普及する以前は、植物採集道具として最も一般的な道具だった。

7）標本ラベルには「温別」と記されているが、「音別」の誤記である可能性が高い。音別は採集当時の1966（昭和41）年は白糠郡音別町だったが、2005（平成17）年10月に釧路市と合併し、釧路市音別となった。

5．謝　辞

浦幌町立博物館の佐藤芳雄館長はじめ職員の皆様、博物館友の会の皆様方には、移動展の開催から標本調査、吉田康登氏調査に際して、さまざまな御協力を頂いた。日本福音ルーテル帯広教会および池田教会の皆様方には、吉田康登氏の関連資料の調査と資料の複製を許可いただき、聖誕節礼拝での展示をはじめ、ご配慮を頂いた。記して謝意を表する。なお、移動展「博物館はなぜ標本を集めるのか？標本からわかること」は、帯広百年記念館運営連絡協議会の主催による平成24年度事業として実施した。

6．引用文献

秋元清治・中西敏之・小山利郎・加藤健太 2012. 相模湾におけるカジメ・アラメ場の実態について. 神奈川県水産技術センター研究報告 5：1-9.

HARADA, Hiroshi, Tatsuya OKAMOTO & Isao YOSHIMURA 2004. A checklist of lichens and lichen-allies of Japan. Lichenology 2 (2)：47-165.

池田町尋常高等小学校 1937. 池田町郷土誌. 池田尋常高等小学校, 池田.

池田町史編纂委員会 1979. 第６編池田町の社会：宗教・文化・体育・観光・医療と社会福祉. 池田町, 池田.

伊藤洋 1976. 新高等植物分類表. 北隆館, 東京.

高桑正敏・勝山輝男・木場英久2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

滝田謙譲 2001. 北海道植物図譜. 自費出版.

浦幌村社会教育教會 1949. 浦幌村五十年沿革史. 浦幌村, 浦幌.

横山春男 1950. 十勝植物誌. 帯広営林局, 帯広.

米倉浩司・梶田忠 2003. BGPlant和名－学名インデックス（YList）, http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html（2013年2月26日）

吉田忠生・吉永一男 2010. 日本産海藻目録. 藻類. 58：69-122.